

消防団長紹介

堺市美原消防団 団長 阪口 純一

堺市は、大阪府の中央部南寄り、大和川を隔てて大阪市の南側に位置し、地形は大別して西部海浜の平坦地と東南丘陵地帯からなっており、西部臨海地域には、重化学コンビナートを主体とする堺・泉北臨海工業地帯が、東南部丘陵には泉北ニュータウンをはじめとする大規模住宅団地が広がっています。また、歴史的・文化的遺産も多く現存しており、特に広く知られている仁徳天皇陵古墳をはじめとする百舌鳥・古市古墳群が、令和元年に世界文化遺産への登録が決定しました。

堺市美原消防団は、昭和7年、平尾村消防組、黒山村消防組、丹南村消防組として消防団の前身が設置され、昭和14年の警防団令の発令により警防団に形を変えながら、昭和22年の消防団令により消防団として設立された歴史ある消防団です。昭和31年の3ヵ村合併により美原町消防団に、平成17年2月に堺市と美原町との市町合併により堺市美原消防団へと、二度の合併を経て本市美原区を管轄区域とする消防団として活動しております。

消防団員数は令和3年4月1現在、48人（条例定数50人）、1団3分団で構成され、消防ポンプ車3台、小型動力ポンプ3台を配備しております。

当消防団では、年間を通して、規律訓練・地水利調査・機関員揚水送水訓練・救急講習会・みはら区民まつりでの広報活動・火災予防運動や歳末特別警戒期間中の警戒パトロールと多岐にわたる活動を行っております。なかでも、自主防災組織への訓練指導は「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が公布される以前から重視しており、住民への積極的な訓練指導を行っております。これは、今後30年以内の発生が危惧されている「南海トラフ巨大地震」への対策として自主防災組織内の防災リーダーの育成が急務と考えており、住民に訓練指導できるよう消防団内でも「水バケツリレー・消火器の取扱説明・三角巾を使用した救急法・ロープ訓練等」を随時実施し、団員の資質向上に努めています。

そして、新たな取組みとして、平成27年度から放置ボンベ（事業所内に長期間使用されず滞留している高圧ガス容器や空地等に投棄された高圧ガス容器）搜索活動を実施しております。大阪府では、高圧ガス保安法に関する事務が平成23年度以降府内市町村（一部市町除く）に権限移譲され、消防本部で実施しているところでもあります。府内消防本部で組織している「保安3法事務連携機構おおさか」において、放置ボンベ撲滅の取り組みが施策立案され、府内消防本部・大阪府・関係団体が協力して「放置ボンベ

撲滅」に向けて取り組んでいる中、本市消防団としても管轄区域での放置ボンベ撲滅に向け、講習会・捜索活動を実施しました。本市の消防団員は地域密着の自営業者が多く、地区長や自治会長など地域のリーダーやその経験者も多いことから、地域コミュニティとの連携を密にし、これまでに22本発見しました。この取り組みによって、管轄地域はもちろん周辺地域住民の安全にも寄与したものと考えております。

私は、昭和56年に当時団長を務めていた伯父の勧めで入団、当時父も団員として活躍しており、親族で消防団活動に従事できたことを誇りに思います。そして入団からちょうど40年を迎える令和3年4月1日から団長として任命されました。

40年にわたる消防団活動で忘れられない現場は、入団して8ヶ月、自宅の目と鼻の先にあるスーパーマーケットが全焼する火災が発生しました。出場途中の道路上から煙が充満しており、現場に向かうのも困難だったのを覚えています。延べ1,315㎡が全焼、店舗4棟・住宅2棟に延焼し、隣接消防本部の応援を受け、8時間以上の消火活動の末、鎮火することができました。不幸中の幸いで負傷者は出ませんでした。私の消防団人生で忘れられない現場となりました。

仕事は金属加工の会社を経営しており、趣味は仕事とボランティア活動です。消防団をはじめ、青少年指導員、防災士、他にも子どもの学校のPTA会長を小中高と務めるなど、地域のために活動してきました。消防団員として、防災士として、地域防災の要であると自覚し、今後も努めていきたいと思っております。

そして、今後の消防団の在り方として、前述の「南海トラフ巨大地震」や大阪の「上町断層帯地震」など、避けられない災害に備えていかなければなりません。大震災時は自然水利が原則であり、管轄区域にため池が複数存在することから、実際に水利部署、放水訓練を実施し、進入路や部署位置の確認を怠ることはありません。

最後に令和4年4月には当消防団管内に堺市総合防災センターが完成予定です。老若男女問わない市民向けの防災体験はもちろん、消防職団員向けの本格的な訓練施設も開設されます。消防団のPRや団員のスキルアップなど、今後、より一層の地域防災力の中核となれるように活動していきます。